社会科（地理的分野）学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
第５校時
学校名　高等学校附属中学校
対　象　第１学年
会　場　教室
授業者　〇〇　〇〇

１　単元名

第２編　第２章６節　オセアニア州（「新しい社会　地理」東京書籍）

２　単元の目標

・　オセアニア州と他地域とのつながりにおける課題について、その解決に必要な情報を読み取り、比較・関連付けながら、他地域とのつながりの背景や影響を理解する。
・　オセアニア州で暮らす人々の生活を基に、自然環境、農業、鉱工業、生活・文化、歴史的背景、などについて大観し、地域的特色を理解する。
・　オセアニア州と他地域とのつながりにおける課題とその解決策について、地域内の結び付きに着目し、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。
・　オセアニア州と他地域とのつながりについて、我が国との比較・関連を図る視点をもって、よりよい国際関係の構築に主体的に関わろうとする態度を養う。

３　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①　オセアニア州と他地域とのつながりにおける課題について、その解決に必要な情報を読み取り、比較・関連付けながら、他地域とのつながりの背景や影響を理解している。 ②　オセアニア州で暮らす人々の生活を基に、自然環境、農業、鉱工業、生活・文化、歴史的背景、などについて大観し、地域的特色を理解している。	①　オセアニア州と他地域とのつながりにおける課題とその解決策について、地域内の結び付きに着目し、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	①　オセアニア州と他地域とのつながりについて、我が国との比較・関連を図る視点をもって、よりよい国際関係の構築に主体的に関わろうとしている。

４　指導観

⑴　単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成 29 年３月告示）　第２章　第２節　社会　第２　各分野の目標及び内容　地理的分野　２　内容Ｂの⑵、内容の取扱い⑷イについて取り扱ったものである。その内容と内容の取扱いについては、次のように示されている。

⑵　世界の諸地域

次の①から⑥までの各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

①　アジア　　②　ヨーロッパ　　③　アフリカ

④　北アメリカ　　⑤　南アメリカ　　⑥　オセアニア

ア　次のような知識を身に付けること。

(ｱ)　世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

(ｲ)　①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

イ　次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ｱ)　①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

（内容の取扱い）

イ　⑵については、次のとおり取り扱うものとする。

(ｱ)　州ごとに設ける主題については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象を取り上げるとともに、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。

(ｲ)　取り上げる地球的課題については、地域間の共通性に気付き、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定すること。また、州ごとに異なるものとなるようにすること。

この中項目は、空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。オセアニア州においては、「他地域との結び付き」を主題に、以下の事項を身に付けることができるようにする。

現代の国家は、他地域との結び付きがなければ成り立つことはできない。しかし、ＳＤＧｓの目標 10 に「人や国の不平等をなくそう」とあるように、国家間の結び付きには課題が見られる。オセアニア州については、イギリスとの結び付きが強かった「白豪主義」という差別的な社会の時代から、経済的な背景によるアジア・太平洋地域との連携の強化、「安全保障上の脅威」との認識が「経済上のパートナー」との認識を上回る対中国への認識の変容等、貿易相手国等に着目して他地域との結び付きの変化を多面的・多角的に考察して、他地域とのつながりに関わる一般的課題とオセアニア州における地域特有の課題を理解する必要がある。

次に、この単元の学習前にオセアニア州に対してもっているイメージと比較しながら、オセアニア州に対しての自然、農業、鉱工業、生活・文化、歴史的背景などについて概観し、その結果として基礎的・基本的な知識を身に付けることで、オセアニア州を大観できるようにする。また、ここで習得した知識が後の学習に活用されるとともに、世界の各州について大観する学習がなされた際には、概略的な世界像が形成できるように学習内容を構成する必要がある。

また、「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項として、他地域とのつながりについて「白豪

主義」などの歴史的な背景や近年のアジアとの結び付きなどと関連付けて多面的・多角的な考察を促す。加えて、我が国との比較・関連を図る視点をもって、よりよい国際関係の構築に主体的に関わろうとする態度を養う。

⑵　生徒観

本単元における既習事項と生徒の実態について述べる。

第１学年第１学期に「世界各地の人々の生活と環境」、第２学期に「ヨーロッパ州」、「北アメリカ州」、第３学期に「アフリカ州」、「南アメリカ州」について学習している。「世界各地の人々の生活と環境」の学習を通して、世界の気候区分について雨温図を読み取ったり、気候帯・気候区分を判別したりする技能が身に付いている。「ヨーロッパ州」、「北アメリカ州」、「南アメリカ州」では、ヨーロッパ人による植民地支配の歴史について、大まかな知識を身に付けている。

本単元に関して、単元学習前に「オセアニア州は、日本を含めてこれまでに学習した地域とどのような関わりがあったと思うか。」という問いを提示した。

生徒の回答結果について内容別に分類して、生徒の実態を把握した。

第１学年（157 人）　自由記述
（歴史）
・　国旗にイギリスのものが入っている。
・　オセアニア州は昔、他地域によって植民地となった歴史がある。
・　過去にアボリジニの虐殺があった。
・　オセアニア州の一部が大東亜共栄圏の一部に含まれていた。
・　核実験による跡が残っている。
（貿易）
・　世界に鉄鉱石や石炭などの資源を輸出している。
・　肉や羊毛を輸出している。
（人的交流）
・　ラグビーの試合をしている。
・　ニュージーランドでは自然が豊かで、観光業が発達している。
・　グレートバリアリーフなどの観光業が盛ん。
・　他地域の様々な人種の人がオセアニア州の先住民と共に生きていて、多くの人種がいる。
・　オリンピックが開催される。
（日本との結び付き）
・　日本人の留学生が多い。
・　日本と緯度が同じで時差が小さい。
・　日本ではスーパーの肉の産地に「オーストラリア」と書かれているものがある。
・　日本は鉄鉱石、石炭をオーストラリアから最も多く輸入している。
（その他）
・　各地域の国とともに地球温暖化の対策を行っている。

生徒の記述を「歴史」、「貿易」、「人的交流」、「日本との結び付き」、「その他」と分類した。第１学期に世界の国々の国旗を調べる学習活動を行っていたため、オセアニア州とイギリスの国旗との関連性についての知識を身に付けていた。日本との結び付きについては、身の回りの生活

の中から、肉類や衣類などの輸入品を把握している生徒も多かった。時差が小さいことから、留学や観光業など人的交流も行われていることに注目している生徒もいた。

一方で、他地域との結び付きに関する課題については、先住民との関係や第二次世界大戦との関係などから捉えた記述があった。他地域との結び付きの中にある「人や国家間の不平等」といった課題を、多面的・多角的に考察させ、現代につなげたい。

⑶　教材観

社会的事象の地理的な見方・考え方については、「中学校学習指導要領解説　社会編」において、「社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること」とし、考察、構想する際の「視点や方法（考え方）」と整理されている。地理的分野の学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを生かして解決すべき課題（問い）を設定する活動を設定する。

オセアニア州は、「空間的相互依存作用」や「地域」の見方・考え方に着目して考察し、表現する。したがって、「空間的相互依存作用」の問いとしては「そこは、そこ以外の場所とどのような関係をもっているのか。」、「なぜ、そのような結び付きをしているのか。」などが考えられる。また「地域」の問いとしては「この地域は他の地域とはどこが異なっているのか。」、「将来、どのような地域にすべきか。」などが考えられる。

本単元ではオセアニア州の「他地域との結び付き」を主題として地域的特色を理解し、我が国との比較や関連を図る視点をもって、よりよい国際関係の構築に主体的に関わろうとする態度を養うことを目標としている。オセアニア州は、「他地域との結び付き」が変容している地域である。オセアニア州の民族構成の変化について捉えさせ、「オセアニア州には、どのような人々が住んでいるのだろうか。」という問いから、単元を貫く問い「オーストラリアはヨーロッパ系住民がほとんどなのに、なぜアジアとの結び付きを強めているのだろうか。」につなげる。その後の学習展開では、「白豪主義」の歴史的背景や産業などの特色から、アジアとの結び付きを多面的・多角的に考察させる。単元の学習の最後には、これまでに獲得した知識・技能を活用して、我が国との比較や関連を図る視点をもって考察させ、思考ツールを用いて主体的に生徒が学習を進められるようにする。

５　年間指導計画における位置付け

≪１学年　地理的分野：年間 70 時間≫

⑴　世界と日本の姿（10 時間）

⑵　世界各地の人々の生活と環境（10 時間）

⑶　日本の地域的特色と地域区分（10 時間）

⑷　世界の諸地域（40 時間）・・・本時を含む単元

６　単元の指導計画と評価計画（全５時間）

※評価規準においては、○＝評定に用いる評価　●＝学習改善につなげるための評価とする。

時間	目標	○学習内容　・学習活動	評価規準（評価方法）
第１時	学習課題：オセアニア州はどのような地域なのだろうか。		
	・　これまでの学習を振り返りながら、「空間的相互依存作用」、「地域」の地理的な見方・考え方を働かせて、オセアニア州を大観する。	○　資料の読み取り ・　単元学習前にオセアニア州と他地域との結び付きを書き出す。 ○　単元を通した問いの把握	○ア－②（小テスト、定期考査） ●ウ－①（単元見通しシート）
	単元を貫く問い：オーストラリアはヨーロッパ系住民がほとんどなのに、なぜアジアとの結び付きを強めているのだろうか。		
第２時	・　イギリスとの結び付きが強かった時代の「白豪主義」から移民国家・多文化社会へと移り変わった背景を理解できるようにする。	○　資料の読み取り ・　オセアニア州はほとんどがイギリスの植民地であり、影響を受けていたことを、国旗や街並みなどの資料から読み取って理解する。 ・　先住民の文化や移民政策から、多文化社会が進んでいることを理解する。	○ア－①（ワークシート、定期考査）
第３時	学習課題：オセアニア州の産業は、他の地域とどのように結び付いているだろうか。		
	・　オセアニア州の産業が、近年アジア諸国との結び付きを強めていることを理解する。	○　資料の読み取り ・　オセアニア州の農業や鉱工業、貿易相手国の変化に関する資料を基に、他の地域との結び付きを理解する。 ・　オーストラリアが一次産品の輸出に頼る理由を、自然環境と関連させて理解する。	○ア－①（ワークシート、定期考査）
第４時・本時	学習課題：日本とオーストラリアは、なぜ結び付きが強くなっているのだろうか。		
	・　我が国とオーストラリアがよりよい国際関係を築くために重要なことを、多面的・多角的に考察・構想し、表現	○　資料の読み取り ・　人的交流、資源、食料、安全保障・経済連携の四つの視点から読み取る。	○イ－①（ワークシート）

	する。	○　グループでの協働学習 ・　多面的・多角的に考察・構想し、表現する。	
第5時	・　これまでの学習を関連させながら単元を貫く問いに対する解答を導き出し、深い学びにつなげる。	○　単元のまとめ ・　単元を通した問いに対するまとめの意見を書く。	○イー①（ワークシート） ○ウー①（単元見通しシート）

7　指導に当たって

⑴　班テーマに即した学習計画

社会・地理歴史・公民　中学校１班の第３期の班テーマは、「深い学びを促す問いの精査」である。深い学びとは、「知識・技能が関連付いて構造化されたり身体化されたりして高度化し、駆動する状態に向かうこと」（田村、2018）である。本単元では、オセアニア州における他地域との結び付きについて、歴史的背景や経済連携などの影響を相互に関連付けて考察できるように構造化した。また、我が国との比較・関連を図り、我が国においてオーストラリアとよりよい国際関係を進展させる手立てを多面的・多角的に考察・構想し、持続可能な社会づくりに向けて追究し続ける態度を育てる。

また、深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。そのために、地理的分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした「問い」の設定に主眼を置いた。

⑵　中高の接続を意識した指導

高等学校新科目「地理総合」では単元を貫く「主題」とそれに基づく「問い」を設定し、「課題把握（動機付け・方向付け）」→「課題追究（情報収集、考察・構想）」→「課題解決（学習のまとめ）」という一連の過程から構想する学習活動を通して「資質・能力」の育成を図ることが求められている。

主題の設定を誰がするのかについては、文部科学省ウェブサイト上の「平成 30 年改訂の高等学校学習指導要領に関するＱ＆Ａ」には、「当初より生徒が問いを立てられるのなら、それは望ましい」としながらも、その段階に至るまでは「教師が適切な問いを設定することが考えられる」とある。中学校では教師が適切な問いを設定することから始めて、地理的な見方・考え方を働かせた多面的・多角的な考察力を育成し、高等学校では生徒が自ら問いを立てられるようにしたい。

【参考文献】

・　文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　社会編」東洋館出版社、2018 年
・　国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」東洋館出版社、2020 年
・　平成 30 年改訂の高等学校学習指導要領に関する Q&A（地理歴史に関すること）：文部科学省（https://mext.go.jp）

8　本時（全５時間中の第４時）

⑴　本時の目標

我が国とオーストラリアがよりよい国際関係を築くために重要なことを、多面的・多角的に考察・構想し、表現する。

⑵　本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 ５分	○　学習課題の把握 ・　オーストラリアと日本の結び付きが重要である理由について、授業前の考えを書く。 学習課題：日本とオーストラリアは、なぜ結び付きが強くなっているのだろうか。		
展開 ① 20 分	○　資料の読み取り（個人） ・　A「人的交流」、B「資源」C「食料」、D「安全保障・経済連携」の面から、日本とオーストラリアの結び付きが重要な理由を考察する。 ○　意見交換 ・　学習者用端末を活用して、意見交換をする。	・　机間指導を行い、資料の読み取りが苦手な生徒に対して支援を行う。 ・　思考ツール（ベン図）を活用したまとめを行う。 ・　出席番号１～10 番は「人的交流」、11～20 番は「資源」、21～30 番は「食料」、31～41 番は「安全保障・経済連携」について入力するように指示する。	
展開 ② 20 分	○　協働学習（少人数） ・　展開①で考察した内容から、日本とオーストラリアの結び付きについて共通点を考察する。 ・　ベン図の中央に何が入るかを考える。 ○　全体共有 ・　学級全体で全グループの意見を共有する。	・　A「人的交流」、B「資源」C「食料」、D「安全保障・経済連携」を相互に関連付けて、考察できるようにする。 ・　学習者用端末にまとめ、考えの共有を図る。	イ－① 多面的・多角的に捉え、関連付けながら、論理的に記述できている。（ワークシート）
まとめ ５分	○　本時の振り返り ・　本時の学習課題に対する解答を単元見通しシートに記入する。	・　机間指導を行い、記入状況を確認する。	

⑶　板書案

2/24 学習課題 　日本とオーストラリアは、なぜ結び付きが強くなっているのだろうか。	（スライド） ・　本時の流れを説明する。 ・　展開②で各グループがまとめたものを投影する。

⑷　授業観察の視点

ア　本時の学習内容は、本時の目標及び単元の目標を達成する上で適切であったか。

イ　本時の学習課題は、生徒の多面的・多角的な思考を促すものであったか。

ウ　本単元指導計画は、生徒の深い学びを実現する上で適切であったか。